

平成25事業年度

独立行政法人国際協力機構 有償資金協力勘定

業 務 報 告 書

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

独立行政法人国際協力機構

目 次

1. 国民の皆様へ	1
2. 基本情報	3
(1) 法人の概要	3
(2) 本部等の住所	5
(3) 資本金の状況	7
(4) 役員 の 状況	7
(5) 常勤職員 の 状況	9
3. 簡潔に要約された財務諸表	10
4. 財務情報	13
5. 事業の説明	16

独立行政法人国際協力機構 平成25事業年度業務報告書

1. 国民の皆様へ

平成25年度における当機構の活動実績等について、以下のとおり報告します。

(1) 政府の重要政策への貢献

機構は、「すべての人が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」のビジョンの下、理事長が掲げる「元気の出る国際協力」（「平和を構築する国際協力」、「市場が拡大する国際協力」、「知識を高める国際協力」、「友情の輪が広がる国際協力」）を実現するため、積極的な事業展開を行っています。平成25年度は、第3期中期目標期間（平成24～28年度）の2年目として、国際社会の開発目標への貢献及び日本政府の政策の実現を強く意識しつつ、国内外のパートナーとの連携を強化しながら、中期目標の達成に向けた取組を着実に推進しました。

具体的には、ミレニアム開発目標（MDGs）の達成の進捗が遅れているアフリカの教育・保健分野等を中心に支援を行いました。また、日本政府と協力し2015年より先の国際開発目標の重点分野として盛り込むべきと国際社会に訴えている「防災の主流化」、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」、「持続可能な都市開発」についても、開発途上地域に対する支援を進めました。また、第5回アフリカ開発会議（TICAD V）で日本政府が掲げた公約の実現、フィリピン台風30号（HAIYAN）災害に対する緊急期から復旧・復興期までの迅速で継ぎ目のない課題横断的な支援、日本の技術を活用した開発途上地域のインフラ整備などに取り組みました。さらに、ミンダナオ和平、アフガニスタン、シリア難民受入れ国等に対する平和構築支援、日・ASEAN友好協力40周年を踏まえた対ASEAN協力の拡充などに取り組みました。

(2) 国内の多様な関係者との連携の強化

平成25年度は、企業、自治体、大学、NGO等の地域の多様な関係者との連携関係が拡大、深化しました。これにより開発支援の質を向上させるとともに、企業・自治体・大学等の海外展開にも貢献しました。

企業との連携については、新たに「開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業」を導入するとともに、特に中小企業の海外展開支援にも資する事業への応募を促進するためのセミナーを全国各地で開催し、延べ約4,200社5,300名の方にご参加いただきました。中小企業を含む企業との連携事業（計8形態）の新規案件数は大幅に増加し、終了した事業についても、その成果を生かしたODA事業や開発途上国政府による事業、企業独自の事業等に展開しています。

自治体との連携に関しては、開発途上地域の支援及び日本の地域活性化の双方に貢献する草の根技術協力事業「地域経済活性化特別枠」を新たに開始しました。また、東日本大震災の被災地域とスマトラ沖大地震の被災地の相互復興を目指す事業を開始するとともに、平成25年度末時点で80名の帰国ボランティアが復興庁に採用され、東日本大震災復興支援に従事しています。さらに、兵庫県、神戸市、埼玉県と包括的連携協定を締結しました。

大学との連携については、TICAD Vで日本政府が表明した5年間で1,000人のアフリカの若者の受入（ABEイニシアティブ）のため、日本の58の大学との協力関係を築くとともに、「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」や草の根技術協力事業を実施しました。

NGOとの連携については、NGOと共同で草の根技術協力事業10年を振り返るための調査及び公開シンポジウムを開催するとともに、NGOの提案に基づいて同事業の制度改善を行いました。

(3) より戦略的、効果的な事業の実施に向けた取組

技術協力について、高中所得国の人材育成ニーズに対応するための有償技術協力（コストシェア技術協力）の制度を拡充しました。円借款事業について、手続の迅速化を進めるとともに、新手法である外貨返済型円借款や災害復旧スタンドバイ借款等の借款契約に調印しました。無償資金協力事業については、協力相手国のニーズに応じて柔軟に調達方式を選択できる制度や為替レートの急激な変動に対応するための追加贈与制度を導入しました。

機構は、これらの援助手法を効果的に組み合わせることで開発途上地域の多様な開発課題の解決に効果的に取り組むべく、国毎に開発課題と効果的なアプローチを分析するJICA国別分析ペーパー（JCAP）の策定を進めました。また、部署横断的なチームを設け、複数の援助手法や案件を有機的に組み合わせた包括的な支援を行いました。

(4) 組織・業務運営の機動性・効率性改善に向けた取組

事業実施上の重点課題やニーズの変化に応じた組織体制の改編について、本部では、海外投融资事業の本格再開を受け、同事業の実施担当課を増設しました。また、海外拠点の配置適正化のため、平成25年度末をもって英国事務所を閉鎖しました。国内拠点については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月閣議決定）に基づく整理統合を着実に実行しつつ、地域の多様な関係者との連携強化に努めた結果、国内拠点の利用者数が増加しました。

契約の競争性・透明性の向上にも努め、応募促進の取組を進めるとともに、競争性のある契約における一社応札・応募の割合を減少させ、コンサルタント等契約にかかる外部審査件数を増加させました。

経費の効率化については、一般管理費及び業務経費（予算編成過程で措置された政策的要素に伴う事業量の増による影響を除く。）の合計について、中期計画の目標である前年度予算比1.4%以上の効率化を達成しました。

2. 基本情報

(1) 法人の概要

①法人の目的

独立行政法人国際協力機構は、開発途上にある海外の地域（以下「開発途上地域」という。）に対する技術協力の実施、有償及び無償の資金供与による協力の実施並びに開発途上地域の住民を対象とする国民等の協力活動の促進に必要な業務を行い、中南米地域等への移住者の定着に必要な業務を行い、並びに開発途上地域等における大規模な災害に対する緊急援助の実施に必要な業務を行い、もってこれらの地域の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的としております。

②業務内容

当法人は、独立行政法人国際協力機構法第3条の目的を達成するため以下の業務を行います。

- ア) 技術協力
 - ・ 研修員受入
 - ・ 専門家派遣
 - ・ 機材供与
 - ・ 技術協力センター設置・運営
 - ・ 開発計画に関する基礎的調査
- イ) 有償資金協力
 - ・ 円借款
 - ・ 海外投融資
- ウ) 無償資金協力
- エ) 国民等の協力活動の促進
- オ) 移住者に対する援助及び指導等
- カ) 大規模な災害に対する緊急援助
- キ) 人員の養成及び確保
- ク) 調査・研究
- ケ) 附帯業務
- コ) 受託業務

③沿革

- 昭和49年8月 国際協力事業団として設立
- 平成15年10月 独立行政法人国際協力機構として設立
- 平成20年10月 旧国際協力銀行（JBIC）の海外経済協力業務及び外務省の無償資金協力業務（外交政策の遂行上の必要から外務省が引き続き直接実施するものを除く）を承継

④設立根拠法

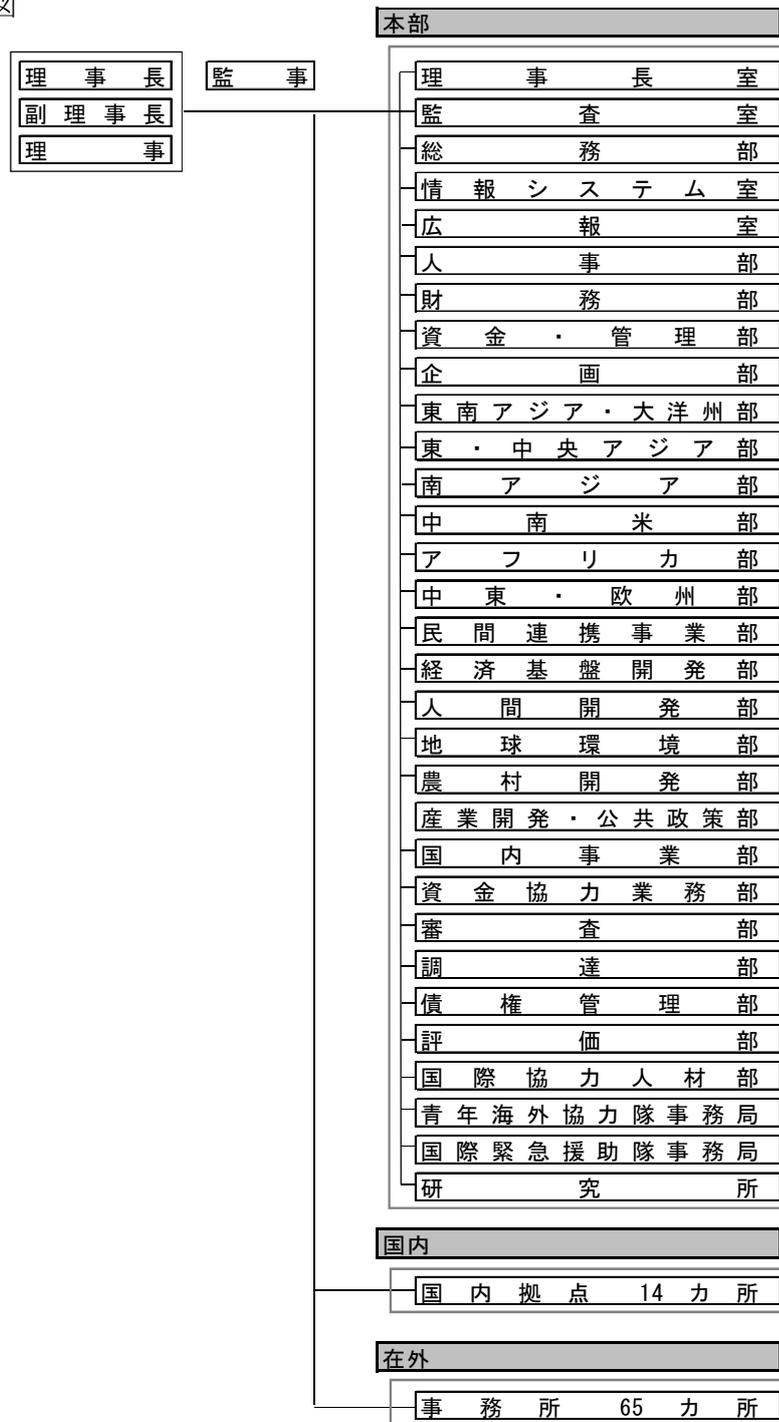
独立行政法人国際協力機構法（平成14年法律第136号）

⑤主務大臣

外務大臣

財務大臣

⑥組織図



(2) 本部等の住所

本部（麹町）：東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
市ヶ谷ビル：東京都新宿区市谷本村町10-5
北海道国際センター（札幌）：北海道札幌市白石区本通16南4-25
北海道国際センター（帯広）：北海道帯広市西20条南6-1-2
筑波国際センター：茨城県つくば市高野台3-6
東京国際センター：東京都渋谷区西原2-49-5
横浜国際センター：神奈川県横浜市中区新港2-3-1
中部国際センター：愛知県名古屋市中村区平池町4-60-7
関西国際センター：兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
中国国際センター：広島県東広島市鏡山3-3-1
九州国際センター：福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
沖縄国際センター：沖縄県浦添市字前田1143-1
東北支部：宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル15階
北陸支部：石川県金沢市本町1-5-2 リファール(オフィス棟)4階
四国支部：香川県高松市番町1-1-5 ニッセイ高松ビル7階
二本松青年海外協力隊訓練所：福島県二本松市永田字長坂4-2
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所：長野県駒ヶ根市赤穂15
インドネシア事務所：インドネシア ジャカルタ
マレーシア事務所：マレーシア クアラルンプール
フィリピン事務所：フィリピン マニラ
タイ事務所：タイ バンコク
カンボジア事務所：カンボジア プノンペン
ラオス事務所：ラオス ビエンチャン
東ティモール事務所：東ティモール デイリ
ベトナム事務所：ベトナム ハノイ
ミャンマー事務所：ミャンマー ヤンゴン
中華人民共和国事務所：中華人民共和国 北京
モンゴル事務所：モンゴル ウランバートル
ブータン事務所：ブータン ティンプー
バングラデシュ事務所：バングラデシュ ダッカ
インド事務所：インド ニューデリー
ネパール事務所：ネパール カトマンズ
パキスタン事務所：パキスタン イスラマバード
スリランカ事務所：スリランカ コロンボ
アフガニスタン事務所：アフガニスタン カブール
キルギス事務所：キルギス ビシュケク
ウズベキスタン事務所：ウズベキスタン タシケント
フィジー事務所：フィジー スバ
パプアニューギニア事務所：パプアニューギニア ポートモレスビー
ドミニカ共和国事務所：ドミニカ共和国 サントドミンゴ
エルサルバドル事務所：エルサルバドル サンサルバドル

グアテマラ事務所：グアテマラ グアテマラ・シティ
ホンジュラス事務所：ホンジュラス テグシガルパ
メキシコ事務所：メキシコ メキシコ
ニカラグア事務所：ニカラグア マナグア
アルゼンチン事務所：アルゼンチン ブエノスアイレス
ボリビア事務所：ボリビア ラパス
ブラジル事務所：ブラジル ブラジリア
パラグアイ事務所：パラグアイ アスンシオン
ペルー事務所：ペルー リマ
アメリカ合衆国事務所：アメリカ合衆国 ワシントン
イラン事務所：イラン テヘラン
イラク事務所：イラク バグダッド
パレスチナ事務所：パレスチナ ガザ
ヨルダン事務所：ヨルダン アンマン
シリア事務所：シリア ダマスカス
エジプト事務所：エジプト カイロ
モロッコ事務所：モロッコ ラバト
チュニジア事務所：チュニジア チュニス
スーダン事務所：スーダン ハルツーム
エチオピア事務所：エチオピア アディスアベバ
ガーナ事務所：ガーナ アクラ
ケニア事務所：ケニア ナイロビ
マラウイ事務所：マラウイ リロングウェ
ナイジェリア事務所：ナイジェリア アブジャ
南アフリカ共和国事務所：南アフリカ共和国 プレトリア
ウガンダ事務所：ウガンダ カンパラ
タンザニア事務所：タンザニア ダルエスサラーム
ザンビア事務所：ザンビア ルサカ
ブルキナファソ事務所：ブルキナファソ ワガドゥガー
カメルーン事務所：カメルーン ヤウンデ
コートジボワール事務所：コートジボワール アビジャン
マダガスカル事務所：マダガスカル アンタナナリボ
モザンビーク事務所：モザンビーク マプト
ルワンダ事務所：ルワンダ キガリ
セネガル事務所：セネガル ダカール
コンゴ民主共和国事務所：コンゴ民主共和国 キンシャサ
南スーダン事務所：南スーダン ジュバ
トルコ事務所：トルコ アンカラ
バルカン事務所：セルビア ベオグラード
フランス事務所：フランス パリ
英国事務所：英国 ロンドン

(3) 資本金の状況

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金（一般勘定）	67,279	-	578	66,701
政府出資金（有償勘定）	7,714,798	50,600	-	7,765,398
資本金合計	7,782,077	50,600	578	7,832,098

(4) 役員状況

(平成26年3月31日現在)

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	田中明彦	自 平成24年4月1日 至 平成27年9月30日		昭和59年4月～平成2年3月 東京大学教養学部助教授 平成21年4月～平成23年3月 東京大学理事・副学長 平成23年4月～平成24年3月 東京大学副学長
副理事長	堂道秀明	自 平成24年4月25日 至 平成28年4月24日		昭和47年4月 外務省入省 平成15年8月 中東アフリカ局長 平成23年2月 特命全権大使経済外交担当
理事	小寺清	自 平成22年4月1日 至 平成27年9月30日 (再任)	総務部（金融リスク管理担当審議役が掌理する事務） 財務部 資金・管理部 企画部（国際開発金融機関との援助協調） 人間開発部 調達部	昭和49年4月 大蔵省入省 平成17年10月 財務省副財務官 平成18年2月 世界銀行・国際通貨基金 合同開発委員会事務局長 (兼世界銀行副官房長)
理事	市川雅一	自 平成23年8月1日 至 平成27年9月30日 (再任)	国内事業部（中小企業等海外展開支援に係る事務） 東・中央アジア部 中東・欧州部 民間連携事業部 産業開発・公共政策部 国際緊急援助隊事務局	昭和58年4月 通商産業省入省 平成22年4月 経済産業省大臣官房審議官
理事	黒柳俊之	自 平成24年7月1日 至 平成27年9月30日 (再任)	人事部（労務及び福利厚生） 南アジア部 中南米部 経済基盤開発部 国内事業部（中小企業等海外展開支援に係る事務を除く） 資金協力業務部 国際協力人材部 青年海外協力隊事務局	昭和53年4月 国際協力事業団採用 平成22年1月 独立行政法人国際協力機構 人事部長

理事	植澤利次	自 平成25年10月1日 至 平成27年9月30日	総務部（金融リスク管理担当審議役が掌理する事務を除く） 情報システム室 広報室 人事部（労務及び福利厚生を除く） 企画部（国際開発金融機関との援助協調を含む国際援助協調企画室長が掌理する事務及びPost2015に係る事務を除く） 審査部 評価部	昭和52年4月 外務省入省 平成19年11月 特命全権大使ナイジェリア国駐筈 平成23年9月 独立行政法人国際協力機構 総務部長
理事	加藤宏	自 平成25年10月1日 至 平成27年9月30日	企画部（国際開発金融との援助協調を除く国際援助協調企画室長が掌理する事務及びPost2015に係る事務） アフリカ部 農村開発部 研究所	昭和53年4月 国際協力事業団採用 平成24年7月 独立行政法人国際協力機構 上級審議役
理事	木山繁	自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日	ナレッジマネジメント担当特命審議役が掌理する事務 東南アジア・大洋州部 地球環境部 債権管理部	昭和52年4月 海外経済協力基金採用 平成20年10月 独立行政法人国際協力機構 上級審議役
監事	伊藤隆文	自 平成23年10月1日 至 平成27年9月30日 (再任)		昭和53年4月 国際協力事業団入団 平成20年10月 独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局長
監事	黒川肇	自 平成23年10月1日 至 平成27年9月30日 (再任)		昭和57年10月 デロイト・ハスキング・アンド・ゼルズ公認会計士共同事務所入所 平成22年10月 有限責任監査法人トーマツ 東京事務所パブリックセクター部マネージャー
監事	町井弘実	自 平成26年1月1日 至 平成27年12月31日		昭和50年4月 株式会社日本長期信用銀行 入行 平成25年7月 SGアセットマックス株式会社 コンプライアンス・オフィサー

なお、独立行政法人国際協力機構法第7条に基づく役員の定数及び同法第9条に基づく役員の任期は次のとおりです。

役職	定数	任期
理事長	1人	4年（再任されることできる）
副理事長	1人(置くことできる)	4年（再任されることできる）
理事	8人以内	2年（再任されることできる）
監事	3人	2年（再任されることできる）

（5）常勤職員の状況

常勤職員は平成25年度末において1,842人（前期末比増減なし）であり、平均年齢は41.66歳（前期末41.29歳）となっています。このうち、国等からの出向者は37人です。

3. 簡潔に要約された財務諸表

(1) 貸借対照表

http://www.jica.go.jp/disc/settle/h25/ku57pq00001mvlu0-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産		流動負債	
貸付金	11,068,669	1年以内償還予定財政融資 資金借入金	275,876
貸倒引当金(△)	△ 142,613	その他	46,345
その他	128,745	固定負債	
固定資産		債券	320,000
有形固定資産	8,902	財政融資資金借入金	1,506,086
無形固定資産	0	その他	8,089
投資その他の資産		負債合計	2,156,396
破産債権、再生債権、更生債権 その他これらに準ずる債権	68,575	純資産の部	
貸倒引当金(△)	△ 46,566	資本金	
その他	68,137	政府出資金	7,765,398
		利益剰余金	
		準備金	1,129,789
		その他	125,569
		評価・換算差額等	△ 23,303
		純資産合計	8,997,452
資産合計	11,153,848	負債純資産合計	11,153,848

(2) 損益計算書

http://www.jica.go.jp/disc/settle/h25/ku57pq00001mvlu0-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
経常費用 (A)	92,278
有償資金協力業務関係費	92,278
債券利息	4,950
借入金利息	27,388
金利スワップ支払利息	10,147
業務委託費	21,278
物件費	12,669
貸倒引当金繰入	7,755
その他	8,090
経常収益 (B)	217,847
有償資金協力業務収入	217,419
貸付金利息	178,962
受取配当金	24,430
偶発損失引当金戻入	10,877
その他	3,150
その他	428
臨時損失 (C)	1
臨時利益 (D)	0
当期総利益 (B-A-C+D)	125,569

(3) キャッシュ・フロー計算書 http://www.jica.go.jp/disc/settle/h25/ku57pq00001mvlu0-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	△ 48,098
貸付による支出	△ 742,635
財政融資資金借入金の返済による支出	△ 317,109
貸付金の回収による収入	705,353
財政融資資金借入による収入	119,400
債券の発行による収入	59,693
貸付金利息収入	174,240
その他収入・支出	△ 47,040
II 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	5,134
III 財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	50,520
IV 資金増加額 (D=A+B+C)	7,556
V 資金期首残高 (E)	58,820
VI 資金期末残高 (F=E+D)	66,376

(4) 行政サービス実施コスト計算書 http://www.jica.go.jp/disc/settle/h25/ku57pq00001mvlu0-att/fin_01.pdf

(単位：百万円)

	金額
I 業務費用	△ 125,569
損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等	92,279 △ 217,848
II 引当外退職給付増加見積額	5
III 機会費用	49,537
IV 行政サービス実施コスト	△ 76,027

注： 独立行政法人国際協力機構法第28条第1項に定める財務諸表は、財産目録、貸借対照表及び損益計算書ですが、独立行政法人会計基準第42にあわせ、貸借対照表及び損益計算書、並びに任意に作成するキャッシュ・フロー計算書及び行政サービス実施コスト計算書を掲載しております。

(参考) 財務諸表の科目の説明 (主なもの)

(1) 貸借対照表

貸付金 : 有償資金協力業務の貸付金

貸倒引当金 : 貸付金等に係る引当金

有形固定資産 : 土地、建物、機械装置、車両、工具等独立行政法人が長期にわたって使用または利用する有形の固定資産

無形固定資産 : 商標権

投資その他の資産 : 投資有価証券、関係会社株式、破産債権、再生債権、更生債権その他これらに準ずる債権、差入保証金等

債券 : 事業資金調達のため発行する債券

財政融資資金
借入金 : 財政融資資金からの借入金

政府出資金 : 国からの出資金であり、独立行政法人の財産的基礎を構成するもの

準備金 : 有償資金協力勘定の利益にかかる積立金

評価・換算差額等 : ヘッジ会計、投資有価証券の評価等により発生する評価差額金

(2) 損益計算書

有償資金協力業務
関係費 : 有償資金協力業務に要した費用

有償資金協力業務
収入 : 有償資金協力業務の貸付金の利息の受入等

臨時損失 : 固定資産の除却損等

臨時利益 : 固定資産の売却益

(3) キャッシュ・フロー計算書

業務活動による
キャッシュ・フロー : 独立行政法人の通常の業務の実施に係る資金の状態を表し、サービスの提供等による収入、サービスの購入等による支出、人件費支出等が該当

投資活動による
キャッシュ・フロー : 将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、固定資産や有価証券の取得・売却等による収入・支出が該当

財務活動による
キャッシュ・フロー : 政府出資の受入による収入等が該当

(4) 行政サービス実施コスト計算書

業務費用 : 独立行政法人が実施する行政サービスのコストのうち、独立行政法人の損益計算書に計上される費用

引当外退職給付
増加見積額 : 公務員からの出向職員に係る退職給付引当金増加見積額 (損益計算書には計上していませんが、仮に引き当てた場合に計上したであろう退職給付引当金見積額を行政サービス実施コスト計算書に注記しております)

機会費用 : 国又は地方公共団体の財産を無償又は減額された使用料により賃貸した場合の本来負担すべき金額等が該当

4. 財務情報

(1) 財務諸表の概況

①経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フロー等の主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）

(経常費用)

平成25年度の経常費用は92,278百万円と、前年度比36,425百万円減（28.3%減）となっております。これは、偶発損失引当金繰入がなく前年度比20,196百万円減（皆減）となったことが主な要因です。

(経常収益)

平成25年度の経常収益は217,847百万円と、前年度比4,355百万円減（2.0%減）となっております。これは、貸付金利息が前年度比5,996百万円減（3.2%減）となったことが主な要因です。

(当期総損益)

上記経常損益の状況に加えて臨時損益として固定資産除却損等1百万円を計上した結果、平成25年度の当期総利益は125,569百万円と、前年度比32,071百万円増（34.3%増）となっております。

(資産)

平成25年度末現在の資産合計は11,153,848百万円となっており、前年度末比24,349百万円増（0.2%増）となっております。これは貸付金の増加48,400百万円（0.4%増）が主な要因です。

(負債)

平成25年度末現在の負債合計は2,156,396百万円となっており、前年度末比161,224百万円減（7.0%

減）となっております。これは財政融資資金借入金の減少197,709百万円（10.0%減）が主な要因です。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成25年度の業務活動によるキャッシュ・フローは△48,098百万円と、前年度比50,354百万円増（51.1%増）となっております。これは、財政融資資金借入による収入が36,500百万円増（44.0%増）となったことが主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成25年度の投資活動によるキャッシュ・フローは5,134百万円と、前年度比27,010百万円減（84.0%減）となっております。これは、関係会社株式の売却及び回収による収入が前年度比16,098百万円減（75.3%減）となったことが主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成25年度の財務活動によるキャッシュ・フローは50,520百万円と、前年度比272百万円増（0.5%増）となっております。これは、政府出資の受入による収入が258百万円増（0.5%増）となったことが主な要因です。

表 主要な財務データの経年比較

(単位：百万円)

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
経常費用	77,888	82,135	124,557	128,703	92,278
経常収益	266,660	252,049	219,527	222,202	217,847
当期総利益	188,666	162,972	94,068	93,497	125,569
資産	11,133,025	11,193,799	11,148,645	11,129,499	11,153,848
負債	2,835,694	2,624,731	2,456,324	2,317,620	2,156,396
利益剰余金（又は繰越欠損金）	779,252	942,223	1,036,291	1,129,789	1,255,358
業務活動によるキャッシュ・フロー	△166,702	△67,754	△29,215	△98,452	△48,098
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,038	222	11,010	32,144	5,134
財務活動によるキャッシュ・フロー	127,152	104,234	41,692	50,248	50,520
資金期末残高	14,691	51,393	74,880	58,820	66,376

②セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）

該当なし

③セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）

該当なし

④目的積立金の申請、取崩内容等

該当なし

⑤行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）

平成25年度の行政サービス実施コストは△76,027百万円と、前年度比25,598百万円減（50.8%減）となっております。これは、有償資金協力業務関係費が前年度比36,425百万円減（28.3%減）となったことが主な要因です。

表 行政サービス実施コストの経年比較

(単位：百万円)

区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
業務費用	△181,666	△162,972	△94,068	△93,497	△125,569
うち損益計算書上の費用	78,018	89,078	125,461	128,705	92,279
うち自己収入等	△259,684	△252,050	△219,529	△222,202	△217,848
引当外退職給付増加見積額	6	6	12	6	5
機会費用	103,990	95,008	75,289	43,062	49,537
行政サービス実施コスト	△77,669	△67,958	△18,767	△50,430	△76,027

(2) 施設等投資の状況（重要なもの）

①当年度中に完成した主要施設等

なし

②当年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

なし

③当年度中に処分した主要施設等

なし

(3) 予算・決算の概況

(単位：百万円)

区分	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		
	予算	決算	差額理由								
収入	237,186	246,975	220,425	215,907	202,317	215,024	195,789	219,935	180,067	202,375	
事業益金	217,300	222,135	210,965	212,520	196,276	212,494	188,676	210,640	175,382	198,669	
事業益金	217,300	222,135	210,965	212,520	196,276	212,494	188,676	210,640	175,382	198,669	
貸付金利息	215,442	212,444	208,790	204,916	193,749	192,529	186,373	183,123	173,255	174,240	注1
配当金収入	1,859	9,691	2,175	7,604	2,528	19,964	2,303	27,516	2,127	24,430	注2
雑収入	19,885	24,840	9,460	3,387	6,040	2,530	7,113	9,295	4,685	3,706	
一般会計より受入	7,000	7,000	-	-	-	-	-	-	-	-	
運用収入	40	46	12	26	9	35	8	38	12	34	注3
雑収入	12,846	17,794	9,448	3,361	6,031	2,495	7,105	9,257	4,674	3,671	
労働保険料被保険者負担金	17	10	17	15	17	15	18	12	17	12	注4
雑収入	12,829	17,784	9,431	3,346	6,014	2,480	7,087	9,245	4,657	3,659	注5
支出	113,172	79,661	105,267	80,728	104,019	84,574	105,732	81,682	100,800	84,915	
事業損金	113,031	79,661	105,127	80,728	103,879	84,574	105,592	81,682	100,659	84,915	注6
役員給	45	41	44	40	43	32	36	28	33	28	
職員基本給	1,617	1,588	1,616	1,614	1,651	1,635	1,703	1,555	1,562	1,552	
職員諸手当	1,389	1,262	1,319	1,229	1,240	1,240	1,258	1,168	1,205	1,204	
超過勤務手当	129	122	124	121	129	110	135	126	126	124	
休職者給与	76	61	67	50	61	59	60	53	55	55	
退職手当	405	220	322	227	294	293	287	236	286	188	
諸支出金	488	445	482	461	487	463	531	475	501	481	
旅費	1,101	1,100	1,097	1,095	1,102	1,102	1,102	1,100	1,130	1,127	
業務諸費	12,865	10,705	12,753	11,215	12,969	10,839	13,044	11,689	13,209	11,749	
交際費	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	
税金	123	31	126	110	126	120	124	86	112	84	
業務委託費	18,273	14,680	20,219	16,733	22,962	22,501	23,224	20,058	23,812	21,463	
支払利息	76,247	49,158	66,222	47,535	62,340	45,835	63,481	44,754	58,023	46,551	
債券発行諸費	272	248	734	297	473	346	605	354	605	307	
予備費	141	-	141	-	141	-	141	-	141	-	

注1 貸付金の貸付利回りが予定を上回ったこと等のため。

注2 配当金が予定より多かったため。

注3 余裕金の運用による預け金利息の収入が予定より多かったこと等のため。

注4 被保険者負担金が予定より少なかったため。

注5 受入雑利息の収入が少なかったこと等のため。

注6 不用額を生じたのは、借入金の残高及び債券利息が予定を下回ったこと等により、支払利息を要することが少なかったこと等のため。

5. 事業の説明

(1) 財源構造

有償資金協力業務の財源構造は以下の通りとなっております。

借入先及び借入額の状況

(単位:百万円)

借入先及び借入額の状況	22年度		23年度		24年度		25年度	
	当初計画	実績	当初計画	実績	当初計画	実績	当初計画	実績
財政融資資金借入金	299,900	192,200	438,000	78,200	427,000	82,900	384,400	119,400
債券発行	175,000	60,000	80,000	60,000	80,000	60,000	80,000	60,000
回収金等によるその他自己資金	311,700	321,148	367,600	429,645	316,100	472,513	400,000	519,813
政府一般会計からの出資金	104,400	104,400	64,400	41,900	56,900	50,342	50,600	50,600
合計	891,000	677,748	950,000	609,745	880,000	665,755	915,000	749,813

事業計画及び実績推移

(単位:百万円)

事業計画及び実績推移	22年度		23年度		24年度		25年度	
	当初計画	実績	当初計画	実績	当初計画	実績	当初計画	実績
円借款	890,800	677,748	949,800	609,734	879,700	665,481	891,480	749,546
海外投融資	200	0	200	11	300	274	23,520	266
合計	891,000	677,748	950,000	609,745	880,000	665,755	915,000	749,813

(2) 業務の業況

平成25年度の有償資金協力業務の実績は、円借款の出融資に係る承諾件数が53件、同承諾額が9,857億円、海外投融資の出融資に係る承諾は1件、同承諾額は0.8億円となりました。また、出融資に係る実行額は円借款が7,495億円、海外投融資が3億円、円借款と海外投融資を合わせた残高は11兆4,155億円となりました。

平成25年度の承諾状況を地域別にみると、アジア地域への承諾額が7,847億円で最も多く、ミャンマー「社会経済開発支援借款」(1,989億円)を承諾した平成24年度より減少し、平成23年度と同程度となりました(平成24年度10,370億円、平成23年度7,695億円)。その他の地域は、中東709億円(平成24年度901億円)、アフリカ519億円(平成24年度472億円)、ヨーロッパ489億円(平成24年度なし)、中南米115億円(平成24年度475億円)、国際機関等95億円(平成24年度なし)、大洋州83億円(平成24年度49億円)となっています。

国別承諾額は、上位5カ国をアジア地域が占め、インドに3,115億円(平成24年度3,493億円に次いで過去2番目の規模)、ベトナムに1,656億円(平成24年度1,788億円)、インドネシアに823億円(平成24年度256億円)、フィリピンに687億円(平成24年度618億円)、ミャンマーに511億円(平成24年度1,989億円)を承諾しました。

部門別承諾比率をみると、運輸(57.5%)、商品借款等(13.4%)、社会的サービス(12.6%)、電力・ガス(12.2%)の順で承諾額が多くなっています。

また、平成25年度は、新たに創設された「災害復旧スタンドバイ借款」にかかる円借款契約(フィリピン500億円、ペルー100億円)に初めて調印しました。本事業により、災害リスク管理能力向上に必要な政策アクションの実施促進と、災害発生時に必要な緊急資金ニーズに備えることを目指しています。さらに、借入国の為替変動リスク軽減を図るべく新たに導入された外貨返済型オプションを、モンゴル「工学系高等教育支援事業」(75億円)にかかる円借款契約において適用しています。

表1 平成25年度 業務実績

(単位：百万円)

承諾	985,771
実行	749,813
回収	710,795
残高	11,415,527

注： 残高については債権管理上の実績であり、独法会計基準に基づく決算値とは計上方法が異なります。

表2 平成25年度 地域別・金融目的別承諾額

(単位：百万円)

地域別	金融目的	円借款		海外投融資		合計	
		金額	件数	金額	件数	金額	件数
アジア		784,646	38	80	1	784,726	39
	東アジア	11,736	2	-	0	11,736	2
	東南アジア	391,473	26	80	1	391,553	27
	南アジア	346,560	9	-	0	346,560	9
	中央アジア・コーカサス	34,877	1	-	0	34,877	1
大洋州		8,340	1	-	0	8,340	1
中南米		11,496	2	-	0	11,496	2
中東		70,888	4	-	0	70,888	4
アフリカ		51,936	6	-	0	51,936	6
ヨーロッパ		48,905	1	-	0	48,905	1
国際機関等		9,480	1	-	0	9,480	1
合計		985,691	53	80	1	985,771	54